
一般社団法人ソフトウェア資産管理評価認定協会主催

SAM World 2015 横河レンタ・リース 発表資料

ハードウェアの資産管理を通して実現するライセンス管理

Ver 1.0

横河レンタ・リース株式会社
コーポレート マーケティング センター
マーケティンググループ
中井 史郎

作成日: 2015年6月23日

更新日:

文書番号: YRL-CMK-201506-001

SAM World 2015 発表資料

© Copyright 2015 Yokogawa Rental & Lease Corporation

© Copyright 2015 横河レンタ・リース株式会社

本書は著作権によって保護される内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、及び翻訳することは、著作権法下で許可事項を除き、禁止されています。

横河レンタ・リース株式会社

〒180-0006 東京都武蔵野市中町 1-19-18 武蔵野センタービル 3F

TEL 0422-60-1111(大代表)

SAM World 2015 発表資料

改訂履歴

版	作成日	作成者	備考
1.0	2015年6月23日	CMK 中井	初版

SAM World 2015 発表資料

目次

1. はじめに.....	1
1-1. 本書の目的.....	1
2. 横河レンタリースのPCライフサイクルマネージメント.....	2
3. ソフトウェア監査への対応.....	3
3-1. ソフトウェアの監査が重要な課題になっている.....	3
3-2. PCライフサイクルマネージメントの構築.....	4
3-3. スポンサーとのリスクの共有.....	5
4. オフラインPCの現状把握の実際.....	6
4-1. ソフトウェアの分析とリスク評価.....	7
5. コンプライアンスとPCライフサイクル.....	8
6. オフラインPC現状把握支援サービスのご案内.....	9

1. はじめに

1-1. 本書の目的

本書は、2015年6月12日に開催されたSAM World 2015で、『ハードウェアの資産管理を通して実現するライセンス管理』と題して、横河レンタ・リース株式会社が行ったセッションをまとめた資料です。PCのライフサイクルとソフトウェアの資産管理の関係についてお話ししました。

2. 弊社のPCライフサイクルマネジメント

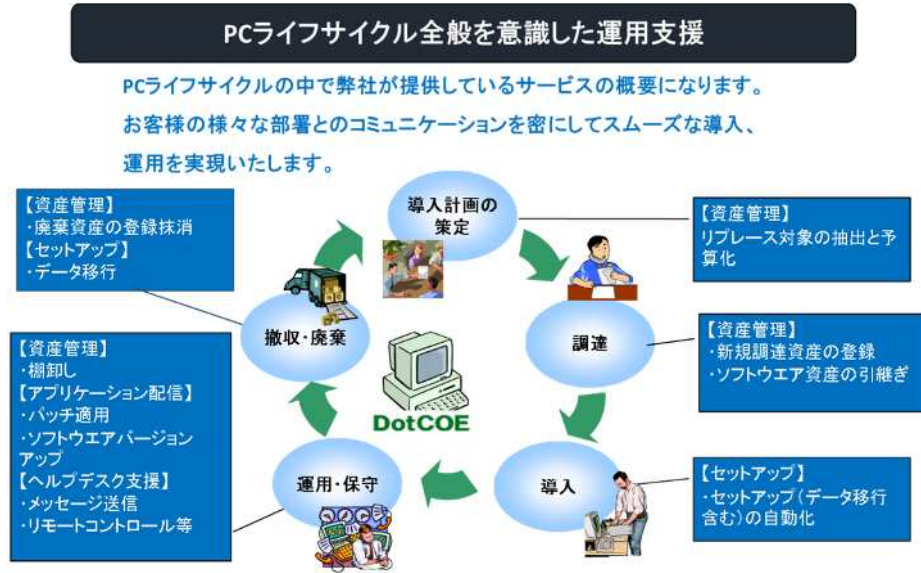


図1 PCライフサイクルマネジメント

弊社ではPCのレンタルビジネスを長年に渡って行ってきたノウハウから、PCのライフサイクルを様々な観点からご支援させて頂いております。本日のセッションは、この経験が背景になっております。

導入計画では、お客様の入れ替えの計画を伺い、多岐に渡るPCの入れ替えの計画を策定いたします。調達については、多様なご相談に応じております。導入作業についてもマスターPCの作成、クローン展開、入れ替え作業計画の管理まで行っております。

運用・保守については、レンタルサービスをお使い頂くと、障害発生時に出荷時のクローンをを行い個別のIP、コンピュータ名の設定をした代替機をお送りすることが可能です。

最後の廃棄についても、レンタル期間の終了に伴い個品ごとに回収を行います。後で述べますが、廃棄PCの取り扱いがコンプライアンス上の問題になるケースが出てまいります。廃棄を確実にすることは、非常に重要な事になります。

3. ソフトウェア監査への対応

3-1. ソフトウェアの監査が重要な課題になっている

2015年4月に米国サンディエゴで開催されたIT資産管理の国際的なカンファレンスに参加してまいりました。カンファレンスではIT資産管理に関するセッションが色々な切り口で多数開催されており、人材育成、体制や仕組みの問題、ファイナンスや廃棄の問題までがセッションでの議論の対象になっておりました。IT資産管理の網羅している範囲

の膨大さを自覚するとともに、IT資産管理が非常に重要な分野になっていることを実感させる3日間でありました。

そのセッションに参加して驚いたことに、参加した殆どのセッションのベースになっているのが「監査への対応」でした。監査への対応を意識したIT資産管理の効率化と管理データ精度の向上に関する内容がセッションの中心議題になっていました。

日本でも監査を受けたお客様のお話をPC管理者の方からお聞きしますが、これから日本でも監査は、恒常的に行われると考えるべきだと思います。もし監査が来たらと考えるより、いつくるか、それに対してどう準備するのが重要だと思います。今後監査対応が、情報システム部のPC担当者の方の重要な仕事になると考えています。

ソフトウェア監査への対応

もし監査が来たらではなく、いつくるかだ！！

これからソフトウェアメーカーからの監査が本格化&恒常化すると想定されます。
さらに、監査に対する専門知識や管理のアウトソースの必要性が高まってきます。

3-2. PCライフサイクルマネジメントの構築

弊社のPCのライフサイクルについては、すでにご紹介いたしました。

PCの導入から廃棄までの一連の管理をPCライフサイクルマネジメントと呼んでおります。セミナーではIT資産管理として幅広い意味でお話しましたが、本稿では、ライセンス管理に直結するIT資産のうちPCに着目いたします。

このPCライフサイクルを運用していくためには、色々な部署との連携が必要になってきます。例えば、導入計画では、現場部署による設備計画の策定について協力が必要になります。調達では、購買部から購入資産の台帳を作成するための購入データの提供を受けなければなりません。このようなことから、IT資産管理は全社的な活動になります。情報システム部だけの努力では、成果が出にくい状況になっています。

上の図が、組織コンサルタントがお話するようなプレゼン資料になっているのは、そのためです。IT資産管理の運用を全社活動にするためには、スポンサー(経営層の支援がベストです。)の支援が非常に重要です。そしてパートナーの協力も欠かすことができません。パートナーとしてイメージ頂く方たちは、社内の協力者や社外の購入先なども重要なパートナーになります。現場のご担当にも、この資産管理の必要性をご理解頂く必要があります。ややもするとスポンサーの協力を取り付ける事だけに注力してしまいがちですが、全社的な活動を推進するためには、パートナーや抵抗勢力(強い表現で恐縮です)とのコミュニケーションも、密にしなければなりません。会社の“リスク低減”と言う、大きな目標を共有して進めて行きましょう。

IT資産管理のライフサイクル管理は**全社的な活動**になります。スポンサーとして、経営層の支援を取り付ける事が肝心です。

- ①スポンサー
- ②パートナー
- ③抵抗勢力

※立場の違いを超えて協力するために

3-3. スポンサーとのリスクの共有

PC資産管理について
スポンサーからの支援
が重要になる事を申し
上げました。

そのために必要な
のがリスクの定量的な
評価です。今まで、何
度かIT資産管理の必
要性を、上申されたご

経験もあると思います。その度、上申が進まなかった情報システム部の方も、おられると思います。

リスクの大きさを定量的に評価して、管理者への報告をするのと同時に、管理目標の合意を得たい。

- ① インベントリーデータと購買データとの突合せ
- ② オフラインPCの現状把握
- ③ 廃棄PCの実情把握

リスクを判断しやすい形で提供できていたでしょうか、リスクへの対応を確実に進めていくご支援を致します

私も同じような経験を何度もしております。IT資産管理自体が利益を生む活動ではないため、実施に向けての上申はなかなかうまく進みません。前の章でご説明したように、日本では監査が恒常化している実感が薄く、なかなか監査対策を提案しても進まないと言うのが現場の現状ではなんでしょうか。

そこで監査を想定した定量的なリスクの評価をお勧めいたします。ほとんどの企業では、すでに資産管理ツールを導入されておられると思います。

ツールを利用して、ソフトウェアインベントリーを分析されておられるでしょうか。購入ライセンスとの突合せはされておられませんか。万が一、オーバーライセンスの数が明確になれば、それだけでも追加ライセンス費用が明確になり、ライセンス管理に取り組む必要性が明確になります。管理体制の見直しの機運が高まると思います。

管理ツールで見ている情報以外にも、様々なリスクが見られます。例えばオフラインPCの管理はいかがでしょうか。ネットワークにつながっていないPC、なんらかの都合で管理ツールがインストールをされていないPCなど、情報システム部の目が届かなかったPCが現場に、そして拠点に存在していないでしょうか。PC資産管理の範囲は社内にある全てのPCが対象です。情報システム部が管理対象外と決めても、監査では対象外にはなりません。

廃棄すべきPCの管理はいかがでしょうか。廃棄PCとして台帳からは消去したPCが残っている例は、よく見かけます。棚卸しをして所在不明PCの検索はしても、廃棄対象のPCがそのままあっても気にされていないのでしょうか。廃棄PCの管理も重要なリスク管理になります。

4. オフラインPCの現状把握の実際

スポンサーとのリスク共有がIT資産管理の活動への取り組みに有効です。

そのために具体的にリスクを評価する必要があることはすでに述べました。弊社では、PCの棚卸しを含めて、リスクを定量的に評価するご支援をいたします。

PCにUSBメモリーを差込、管理者権限でインベントリー収集プログラムを実行するとインベントリー情報が収集されます。

- 1) コンピュータに貼る管理シールの準備
- 2) PCを出来るだけ、まとめておいて作業を行うこと。(現場担当者しかわからないPCがあり)漏れなく棚卸しするための取り組み
- 3) 廃棄PCの洗い出しを行います。すでに利用しなくなったPCは速やかに廃棄します。



写真の例は、オフラインPCの現地棚卸し作業の状況です。オンラインPCについては、既に多くの企業でPC資産管理ツールを導入済みだと思います。そのツールを使うことでソフトウェアのインベントリーを収集することはできるようになっていると思います。

この事例は、それ以外のオフラインPCの現状把握の方法になります。オフラインPCについては、開発現場などで設備の一部として導入されているPCや、何らかの事情でツールが入っていないPCなどがそれに当たります。これらのPCについて、現地で機器を特定し、管理シールを貼り、インベントリーを収集してきます。

写真の例では、PC資産管理ツールをPCにインストールすることなく、USBメモリーにあるソフトウェアを起動するだけで、必要な情報を収集いたします。現場からの、『不必要なソフトウェアのインストールは避けたい』との意向に基づき、弊社で作成したツールです。

棚卸しでは、現場の管理者の協力も必須になります。なぜ棚卸しをするのか理由が分からなければ、現場も不安な気持ちになり抵抗勢力になりかねません。先ほど、パートナーや現場の協力者とのコミュニケーションが必要だと申し上げたのは、このような場面のことです。この時に不要となったPCの棚卸しも併せて実施してしまいます。現場担当者しか分からない場所に廃棄PCがしまっている場合もあります。

台帳にない廃棄PCはそのライセンスを正規に購入したことが証明できません。最悪、廃棄PCのライセンスを再度購入して、PCの廃棄を行う場合もあります。前の章で、廃棄PC管理が重要なリスク管理になると申し上げたのは、このような追加費用発生の可能性があるのであります。

4-1. ソフトウェアの分析とリスク評価

次に、収集したインベントリー情報を分類し、評価を行います。

SAMACでは右の表にあるような分類でソフトウェア辞書が作成されており、各々の分類によってリスクを検討する事が可能です。

3. 導入比率別分布											
【導入比率別分布】											
種別	合計	インストール台数									
		1~3台	4~10台	11~15台	16~20台	21~30台	31~50台	51~100台	101~200台	201~500台	501台~
有償ソフトウェア	1038	646	212	41	39	20	21	17	14	13	13
フリーウェア	1632	1023	280	56	38	31	45	62	40	34	23
ドライバ・ユーティリティ等	2170	1228	421	151	68	75	66	56	35	32	38
アドウェア系	5	3	0	0	1	0	0	1	0	0	0
文字化け	11	9	1	0	0	0	0	0	0	0	1
不明	420	295	70	18	7	4	8	8	2	4	4
辞書未登録	3040	2696	230	46	14	25	14	9	9	5	2
合計	8,316	5,892	1,214	312	167	155	154	153	100	88	81
比率	100.0%	70.9%	14.6%	3.8%	2.0%	1.9%	1.9%	1.8%	1.2%	1.1%	1.0%
ソフトウェアの利用シェア(%)		100.0%	29.1%	14.6%	10.8%	8.8%	6.9%	5.1%	3.2%	2.0%	1.0%
ソフトウェアの利用シェア(種類)		8,316	2,424	1,210	898	731	576	422	269	169	81

利用ソフトウェアの利用機器数別分布を表示。

※上記の例では全種類の85.5%が10台以下で利用されており、辞書未登録のソフトウェアの88.3%が3台以下で利用されているものであることを示している。

SAMACソフトウェア分析ツールのご紹介より引用

例えば、有償ソフトウェアについては、オーバーライセンスが生じていた場合には、追加費用が発生します。インベントリー情報は現在のPCにインストールされているソフトウェアの情報を収集してきた結果です。しかし現実には、購入したライセンスをダウングレードして古いバージョンで利用しているケースもあります。このようにライセンス管理は『どのPCに、どのライセンスを割り当てているか』を付き合わせて初めて管理ができたと言えます。

フリーソフトウェアやアドウェア(広告表示の代わりに無償)などはセキュリティに問題がないか、調査する必要があります。品質の向上のために必要な情報を収集することを約款に記載しているソフトウェアが散見されますが、どのようなデータを収集し、開発元に送っているか明記されていないものもあります。

このようにして、インベントリー情報収集から、追加ライセンス費用が必要な場合や、セキュリティの観点から利用を制限したほうがいいソフトウェアが何台くらい利用されているのか、具体的な数量でそのリスクを把握する事が可能です。

この現状把握の結果をもとに重点的に管理するソフトウェアを、具体的に特定することができます。この結果をもとに管理体制を構築するために必要な工数・費用や計画の策定も可能になってまいります。現状把握が重要だと言われる所以はここにあります。

5. コンプライアンスとPCライフサイクルの設計

ソフトウェアの資産管理ができていない状態にするためには、右の図にある4つの台帳の整備が必要になります。

まずハードウェアの台帳ですが、どんなPCがどこで、何台あるのか明確になっていなければなりません。

次にソフトウェアインベントリ台帳ですが、これは先のハードウェア台帳の各PCにどん

なソフトウェアがインストールされているのか管理されている台帳になります。先のハードウェア台帳が正確でないと、こちらの台帳も当然漏れが発生してしまいます。ハードウェア台帳が管理できていれば、それに応じて(オンライン、オフライン問わずに)漏れなく管理を行えます。

3番目の購入ソフトウェア台帳は、購買部門で管理されている購買履歴から、購入ソフトウェアの台帳を作成します。購入したソフトウェアとインストールしたソフトウェアを付き合わせ、過不足のない状態にすることがライセンス管理になります。先に述べたように、ダウングレードやアップグレード権を行使している場合もあり、こまめな確認が必要になります。最後の付属品台帳はパッケージソフトウェアなどを購入した場合に正規のライセンスであることを証明するために必要な付属品の管理台帳です。

PCのライフサイクルから見たときに、これらの台帳を高い精度で保つことは非常に難しいことになります。現場の判断で購入したソフトウェアについては、購買部署からその情報を随時入手するルールが必要になります。ハードウェアの購入や入れ替えの管理を、モニターするのも非常に難易度が高い管理になります。

例えばレンタルサービスをご利用の場合には、PCの導入作業から廃棄、そこにインストールしたソフトウェアについては、クローニングした台数まで含めて管理することが可能になります。ダウングレードしてインストールしたPCまで特定することが作業報告書から可能になります。レンタルPCの例でご説明しましたが、現在お付き合いのあるベンダーとの連携もソフトウェア管理を意識した作業報告をしてもらうように改修するだけで、管理者の工数は削減でき、かつ台帳の精度も向上させることができます。ソフトウェアの調達先を決めることで、購入台帳と代理店の販売データの付き合わせで2重チェックの仕組みを作ることも可能です。

幾つかの例をあげましたが、今後PCの運用担当者には、『PCのライフサイクルを構成する社内外のパートナーの役割を、設計し、管理すること』が求められていくことになると思います。

コンプライアンス遵守のために

また 基本のおさらいで恐縮ですが

- ①ハードウェア台帳
- ②ソフトウェアインベントリ台帳
- ③購入ソフトウェア台帳
- ④付属品台帳

これらの台帳の精度を高めるために、PCライフサイクルにおいて、様々なサービスを提供しております。

6. オフラインPC現状把握支援サービスのご案内

ライセンス管理を全社活動にするために、リスクの定量的な評価にご利用ください。



最後に現状把握のための棚卸しサービスのご案内を致します。

現状把握をすることでリスクの把握を行うことをお勧めいたします。ネットワークに接続されたPCについてはツールを使い現状把握を進めることが可能です。オフラインPCについての不安をお持ちの場合に、現地での棚卸しからソフトウェア辞書を使った分析、報告書作成までご支援させていただきます。

本資料に関するお問い合わせ先

横河レンタ・リース株式会社
コーポレート、マーケティングセンター
中井史郎
TEL 0422-60-1321
Mail shiro_nakai@yrl.co.jp